

＜過去1週間の動き＞

(11月11日～11月17日)

USD/ZAR: 15.1550～15.4825

ZAR/JPY: 7.36～7.51 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、小幅反発から堅調気味の横ばいが先行、その後明確に水準を切り下げ、8ヵ月ぶりの安値(対ドル)を15.4825まで広げた。11日のランド反発は、ゴドングワナ財務相による中期予算政策声明(MTBPS)の発表と並行したが、MTBPSに対しては「予想通り」との評価が太宗を占め、そこにランド反発を促すような要素は見当たらなかった。「予想通り」というのは、①足元景気上振れ(=歳入増)を反映した財政の改善、ただし、②一時的な歳入増を背景とした恒久的な支出増は回避 ③先行き景気見通しに関する控え目な予想、それでも、④3年後には基礎収支(金利負担を除く財政収支)の黒字化など財政/債務の改善基調などといった点に集約された。16日のランド急落は、10日のそれ同様、ランド安と言うよりは、米経済指標の上振れを受けたドル全面高の一環。同日発表された米10月小売売上高(前月比+1.7%)の大幅上振れが米連銀早期利上げ観測を補強し(10日は米10月CPIが上振れた)、ドル全面高を誘った。一方で、この間支配的だったランド堅調地合の背景に、南ア準備銀による利上げ観測があった可能性は考えられたが、17日に発表された南ア10月CPI(後述)は、市場の予想に沿った内容。ランドの値動きに対する影響は限定的にとどまった。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
11/11	9:30	鉱業生産(前年比)	9月	-3.4%	+2.7%	+0.7%r
	11:00	製造業生産(前年比)	9月	+1.3%	-1.3%	+1.9%r
11/17	8:00	CPI(前年比)	10月	+5.0%	+5.0%	+5.0%
	11:00	小売売上高(前年比)	9月	+2.1%	+0.7%	-1.3%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(11月18日～11月24日)

USD/ZAR: 15.350～15.650

ZAR/JPY: 7.25～7.40

向こう1週間の南ア・ランド相場は、南ア準備銀金融政策委員会(18日)における政策金利据え置き(利上げ見送り)を前提に、軟調推移継続を予想。市場予想の中央値は25b.p.の利上げを見込んでいるようだが、利上げ予想と据え置き予想とは概ね半々に割れている。10月CPIは予想通りの水準だったものの、今秋以降、先進国/新興国を問わず、ほとんどの国でインフレの加速が顕著な中、南ア物価の頭打ちは目を引く。しかも、+5%は、余裕で南ア準備銀誘導目標(+3～6%)の範囲内で、コアCPIに至っては前年比+3.2%(10月)と同下限に近い。景気腰折れに対する警戒感が根強い現状で、敢えて「予防的な」利上げに踏み切る環境が整っているようには思えない。MTBPSという注目イベントが波風立たずに終わったところで、南ア財政を巡る注目は、公務員賃金凍結に対する憲法裁判所判断に移っている。仮に、同裁判所が同凍結を違憲と認め、過去に遡及して賃上げ分の支払いを命じることがあれば、MTBPSの目論見は初手から崩れることになりかねない(南ア国債/ランド売り要因)。一方で、足元ドル高は、米側の要因(早期利上げ観測の台頭)によるドル全面高だが、11月10日以降、ここまで一本調子のドル大幅上昇には、流石に行き過ぎの感も出てきたのではないかと。現状の織り込みは「来年末と見込まれた利上げ開始が、来年末に前倒しになるかもしれない」といったあたりと思われるが、単月の物価統計/消費統計の上振れで俄かに勢いづいた早期利上げ観測が、向こう半年以上の間に、逆に萎む場面があったとしてもなんら不思議ではないはず。今週末に前後して、米連銀次期議長指名も明らかになるものと見込まれるが、万が一、ブレイナード副議長が指名されれば、格好のドル調整売りのきっかけになるだろう。予想通りパウエル議長が再指名されたとしても、ドル押し上げ余力は限定的という、非対称な反応が予想されるのではないかと。

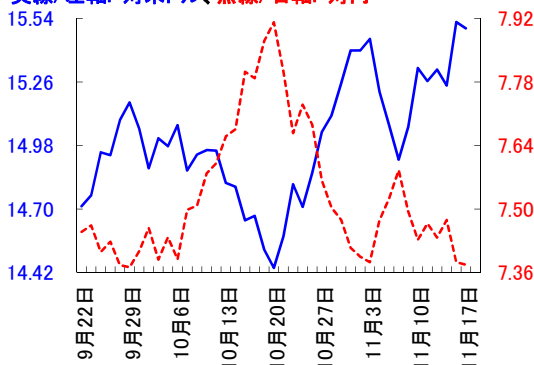
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
11/18		南ア準備銀レボ金利			3.75%	3.50%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

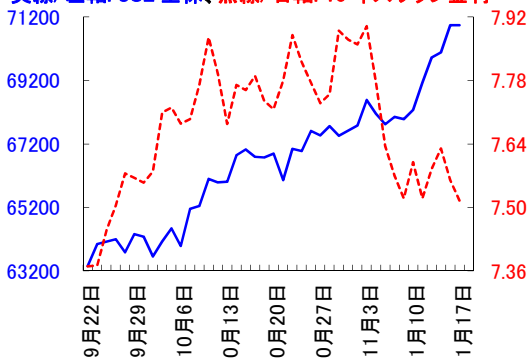
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	11月17日	7.52%
株価指数(JSE 全株)	11月17日	70942.34
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	10月	+5.0%
小売売上高(前年比)	9月	+2.1%
製造業生産(前年比)	9月	+1.3%
鉱業生産(前年比)	9月	-3.4%
貿易収支(ZAR)	9月	+22.2bn
金価格(ロンドン 17:00)	11月17日	1866.28

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。